

淳を思って

モモ、ポメラニアンの子。淳の残したわすれがたまです。

川べりを散歩する時、不自由な足を引きずるようにして、しっぽをふりふり知らない人のところにも寄っていきます。たいていの人は可愛い可愛いと言って撫でてくれます。それがうれしいモモです。淳も「モモはアイドルなんだよ、みんなに可愛がられているんだ。」と言って自慢のモモを一人で育てていました。

そんなモモを、「もう育てられないんだ、10月頃までみてほしいんだ」と言ってゲージと共に昨年4月、私たち夫婦のところにつれてきました。とてもつらそうでした。8年以上育ててきた子でしたから。でもそれ以上に自分の体がつらく、苦しくなっていたのです。2.3時間しか眠れない、食欲もない。いつも仕事のことしか考えられないとストレスをためていたのです。だんだんやせていく姿を見る私たちにも、辛い日々が続いていました。過重な仕事に心も体も悲鳴を上げていたのだと思います。でもまさか亡くなるなんて。

淳は7月19日スマホを手に自室でたった一人旅立ちました。48年の生涯でした。7月19日の夜「明日の土曜日に帰るからね。」という電話が最後でした。22日に淳の死がわかりました。40℃近い真夏の真っ盛りの突然のことでした。「淳、スマホで何が言いたかったの？今どこにいるの？何もできなくてごめんね。たくさんの思い出ありがとう。」そんな言葉が私の中で堂々巡りをしていました。

22日、淳は解剖に付され虚血性心疾患という病名がつきました。過労死の入り口の病だそうです。

モモは今、一日3回大好きな散歩をしています。病気で足が不自由になり走れませんが、元気いっぱいです。淳が生きられなくなった日々をモモと一緒に、淳を思いながら生きていきたいです。淳、モモは幸せにするからね。

淳の母 No. 1

